



2030年に向けての口腔保健（オーラルヘルスプロモーション）戦略

小川祐司

新潟大学大学院医歯学総合研究科予防歯科学分野

WHO 口腔保健協力センター

口腔疾患は先進国・開発途上国を問わず人々の QOL を損ね、公衆衛生上大きな問題である。口腔保健を世界的に推進していくため、WHO（世界保健機関）は口腔疾患を非感染性疾患（Non-communicable Diseases: NCDs）と位置付けて、喫煙、過度の飲酒、不健康な食生活などの共有するリスクファクターを歯科からコントロールする重要性を提唱している。口腔保健従事者による禁煙支援や砂糖の摂取抑制を含めた栄養指導の実践によって、口腔疾患予防だけでなく NCDs 予防にも恩恵をもたらすことが期待される。そのためには、口腔疾患のコントロールや予防をライフコースアプローチとして、母子保健、学校保健、高齢者保健などの分野と統合することが肝要になる。

また、国連は 2030 年までに持続可能な世界開発目標として、Sustainable Development Goals (SDGs) を提唱している。17 ある目標の一つは「すべての人に保健と福祉を」であり、「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し福祉を推進する」ことである。口腔疾患対策は、貧困・格差拡大をはじめ SDGs のその他全体の目標にも関係し、持続可能な発展における重要事項であることから、口腔保健をいかに多職種連携で推進していくかが今後さらに問われることになる。

口腔保健の目指すゴールは、口腔の健康を意味するだけのものでは成り立たなくなっている。口腔保健の意義を実質化する上で、口腔保健従事者の意識改革が求められている。

本講演では、2030 年に向けてのグローバルイニシアティブのもと、WHO が目指す口腔保健を概説し、併せて我々がどのような役割を担えるかについて考察する。

小川祐司(おがわひろし)

【略歴】

1994 年 日本大学松戸歯学部 卒業
1996 年 シドニー大学大学院歯学研究科 修士課程修了
2001 年 新潟大学大学院医歯学総合研究科 博士課程修了
2003 年 WHO 世界保健機関 国際口腔保健部 短期専門員
2011 年 新潟大学大学院医歯学総合研究科 准教授
2014 年 WHO 世界保健機関 国際口腔保健部 統括歯科医官
2018 年 新潟大学大学院医歯学総合研究科予防歯科学 教授
新潟大学歯学部学部長補佐
WHO 世界保健機関協力センター長(新潟大学)

【その他】

日本歯科医師会
国際渉外委員会委員
日本口腔衛生学会
国際交流委員会委員長
FDI(世界歯科連盟)
歯科公衆衛生委員会委員